

10.31 狭山中央集会開催



「……司法権力中枢にくらいついて闘い、必ず無罪を勝ちとる……」獄中で不屈に闘う石川一雄氏のメッセージに全参加者が決意を新たに。 (10.31 東京・明治公園)

日刊 動労千葉

82.11.4
No. 1186

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)・(公衆)四三三(七)七二〇七

十月三十一日、寺尾差別判決八ヶ年糾弾、狭山再審貫徹、反核平和中央総決起集会は、明治公園を埋めつくす部落解放同盟、労働者学生を結集し開催された。

動労千葉は、青年部を中心に四〇名がたかかいてきた。

集会は、主催者あいさつのもと、狭山再審闘争勝利のために、最

高裁に対して事実調べのための運動をおこす、検察のかくし持っている全証拠を開示させることを課題に、昨年暴露された小名木証言を武器に反核運動と結合してたかかいていくという基調報告がなされた。

その後、弁護団による裁判闘争の現状についての報告、連帯のあいさつのもと石川一雄氏からの

10/27 木更津支部、検査検修分科会を結成

臨調、緊急措置十一項目、仲裁々定完全実施、さらには検修下回り民託攻撃と、反動の嵐がうずまく中で、十月二十七日、木更津支部は検査・検修分科結成委員会を開催し、断固として闘う体制を確立した。

委員会は司会者挨拶のあと、来賓の本部検・修分科・林事務長より「第二臨調の本質」と「五七・一一をめぐる情況」さらに、秋年闘争についての詳細な説明を受けた。

委員会は、経過報告、活動方針案、予算案、規約の制定が提案され、真剣な討議の後、大合理化攻撃に抗し闘う体制を構築していくことを確認し、新役員を選出し成功裡に終了した。

木更津支部検・修分科会は、結成委員会の成功をもって戦闘宣言を発した。

我々は今こそ、動労千葉結成の理念を思い出し、反合・三里塚闘争のさらなる前進の中から、反動の嵐を一本の団結の矢となつて突き破るうではないか。



メッセージが代読された。

八年前の高裁寺尾による「無期懲役」に怒りを燃やし、「新証拠を出すまでもなく無実は明らかである。寺尾判決への怒りがこみあげてくる。司法権力中枢にくらいついてたかかいていく決意である」この後、集会決議を採択し、デモになりました。

デモ出発までの間に、千葉県連、茨城県連合同の独自集会がおこなわれ、田中青年部長が動労千葉を代表して、石川一雄氏奪還まで共にたかかいていくことを決意表明してきました。デモは、機動隊の規制をはねのけ、新宿まで貫徹してきました。

七四年十月三十一日、東京高裁寺尾による「無期」という差別判決から八年、われわれは石川一雄氏の怒りを受けとめ再審貫徹、即時奪還のためにたかかいかなくてはならない。日帝・最高裁は、今、要求している特別抗告をも却下しようとしている。われわれは、石川氏獄死攻撃を全人民の怒りで粉碎しなければならぬ。

部落解放闘争は、今重大な段階に入ったといえる。日帝は戦闘的解放闘争をたたくつぷそうと荒本支部―意岐部東小への弾圧をはじめとした攻撃をかけてきている。部落解放なくして「労働者の解放はない。われわれは、今こそ石川一雄氏の怒りの声にこたえて、日帝の三里塚二期、国鉄労働運動解体攻撃をはじめとする諸反動攻撃を粉碎し、部落解放―石川一雄氏奪還まで共にたかかいかなくてはならない。